

経営比較分析表（平成29年度決算）

山形県 新庄市

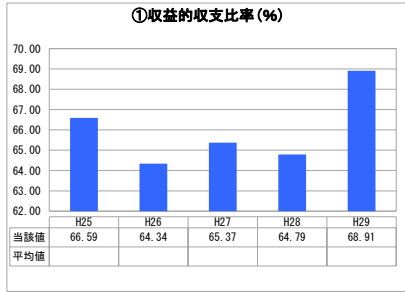
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cc2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)
-	該当数値なし	53.25	70.38	3,726

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
36,347	222.85	163.10
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
19,185	5.24	3,661.26

グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成29年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



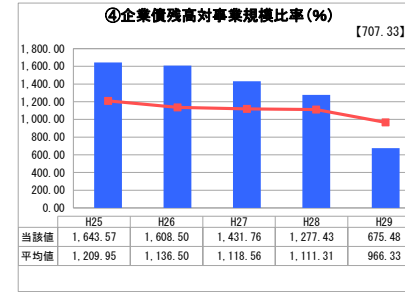
「単年度の収支」



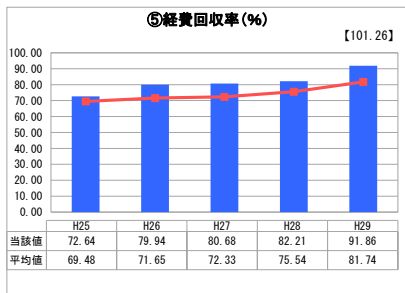
「累積欠損」



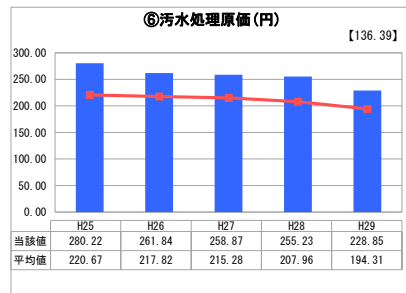
「支払能力」



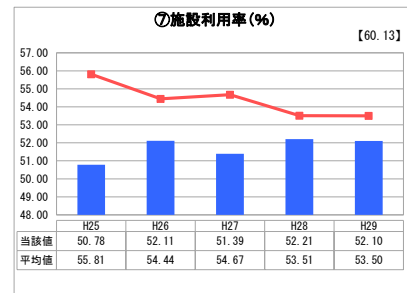
「債務残高」



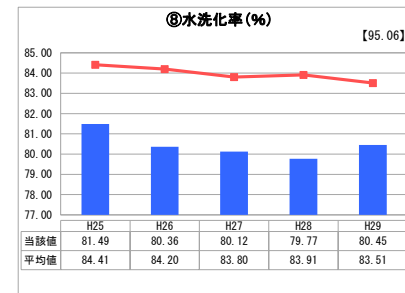
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

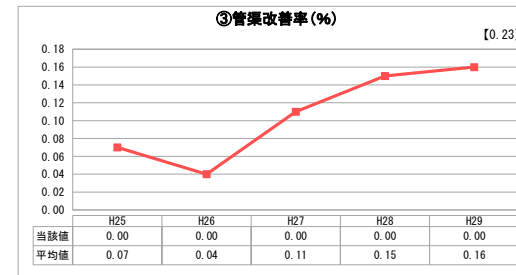
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率は100%未満であるが、前年度から4.12%上昇した。経営改善に向けた取組が成果を上げており、今後も更なる比率の向上に努める。

②累積欠損金比率は、前年度より減少している。未だ建設途中にあるため、管渠整備や長寿命化計画に伴う処理場の設備更新も控えていることから、適正な発行に努め、残高の縮減に取り組む。

③経費回収率は、比率が100%未満であるが、類似団体と比較して高い数値となっており、また年々数値も向上している。

④汚水処理原価は、類似団体平均を上回っているが、昨年の処理原価から26.38円削減されている。更なる維持管理費の削減や下水道接続率の向上による有収水量の増加に努め、適正な水準となるよう、経営努力を進めていく。

⑤施設利用率は、全国平均及び類似団体平均より低く、処理能力に比べて実際の処理水量が大きく下回っている。人口減少や節水型社会の広がりなども要因として挙げられるが、最大稼働率も66.75%であり、施設が有効に活用されるようダウンサイジング等も含め、施設効率の改善に取り組む必要がある。

⑥水洗化率は、昨年度より数値は向上しているが、類似団体と比較して低い数値となっている。高齢者世帯も多く、供用開始しても接続に至らない家屋も多いが、今後も個別訪問などの普及活動に努め、水洗化率の向上を図っていく。

2. 老朽化の状況について

管渠の更新時期は到来していないが、今後は計画的に更新・改良を進めていくことが必要と考える。

全体総括

経営の健全性や効率性を示す指標が、前年度からは向上しているが、全国平均より低い水準にあり、更なる経営基盤の強化に取り組む必要がある。現在は整備事業を進めていることから水洗化率及び経費回収率が100%となっていない。今後も年次計画に基づいた整備を進めながら、将来の更新・改良にも備えていく必要がある。財源の確保が課題となる。適正な使用料の設定と接続推進を行いながら、費用の抑制に努め、経営の健全化及び効率化を進めていく。

また、管理面においても平成32年度から地方公営企業法の適用を目指し、持続可能なサービス提供に努める。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。